

留学1か月半で感じること

August 29th Sunday

アメリカに来てから、もう1か月半が経とうとしている。ここに来てからは本当に毎日が新しい発見や挑戦にあふれていて、とっつとも充実している。信じられないくらい時間の流れが早い。

日本から飛び立つとき、あんなに楽しみにしていた留学が、たまたま怖くなった。学校で過ごす最後の1週間は、やっとアメリカに行けるという幸せで、やっぱりここに残りたいというためらいが半々で、正直授業もまともに聞けなかった。周囲の反対の声や、ありもしないうわさ話、質問攻めにあうのが嫌で、友達にも直前まで留学の事は黙っていた。フロアの拡大で、当たり前の生活も送れない中で、自分だけが行きたい場所へ行って、やりたいことをすることが果たして正しいことなのか分からなくて、周囲の反応が怖くて怖くて仕方なかった。でも今となっては、あの時の考えは杞憂だったと思う。

私が留学に行く事を伝えたとき、涙を流してくれたのも、プレゼントやあたたかいメッセージカードに気持ちを込めて贈ってくれたのも、話したことがあまりなくても「清家さんー!」って駆け寄り、応援してくれたのも、みんなみんな本当に私の家族、友達、先生達だった。何でこんなにあたたかい人達のことを怖がっていたのか、本当に自分のことが恥ずかしくなる。ああ、ここには私のことを必要としてくれる人がいるんだって、涙が出て、胸が熱くなった。あらためて自分がどれだけ幸せなのかを実感した。学校最後の1日、先生方がたくさん時間をくださって、自分の思いや感謝を伝えられて本当に良かった。今でもあの日の思い出が私の支えだし、写真を見たら、自然と笑顔になる。離れて初めて、自分の日本での生活の尊さに気がついた。感謝でいっぱい。パッキングをすすめて、日本でおいしい物もたくさん食べて、気持ちも整理して、やっとのことで飛行機に乗った時、嬉しいのが悲しいのがよく分からないけれど、涙が出た。日本にいた時は絶対に泣かないぞ!!と意気込んでいたにも関わらず、その意志は1日目で破れた。やっぱり、こうえられないもんはしょうがない!! (笑)

私の留学はきっと、アメリカに来た日から始まった訳じゃなくて、留学したいと思ったその日から始まっていたんだと思う。ものすごく悩んで、努力して、自分と向き合って、今までの人生で最も大きな決断をした。今年の春、「自分が本当にいるべき場所はここか?」これが本当にやりたい自分か? 今、私は何に向かって努力しているんだろう?

今、私は何ができるんだろう? 結局私は何をしたいんだろう?」フロアの休校中突然頭の中に大量の?マークが浮かんできた。学校が始まって友達もできて、前とは違う「当たり前」に慣れてきても、自分の頭の中の?マークは消えなかった。2020年にたくさん挫折や劣等感、不安を感じながら、自分の中で「留学に行きたい」という思いが少しずつ大きくなっていった。中2の春に見たアメリカの高校で、自分も過ごしてみたいと思った。そして何より、人とは違う何かを得たいと思っていた。何一つ秀でたことがない自分を変えたかった。部活で先生に「器用貧乏」と言われた時、自分の中で「何か1つに決めよう」と心がかたまった。今の私に必要なものは留学だと、やっと心に決めて、今年の冬、私の留学は現実になった。

(その後自分がしたことは、書き始めるととんでもなく長くなりそうなので、また今度にする。)

出発前の自分の記憶や思いが新しいうちに、書きとめておきたから、1か月の記録と一緒に残しておく。

...前置きが長い。長すぎる。思いのたけをつづいていたらとんでもないことになった。

ここからはアメリカでのことを書くと思う。←いやおそい!! (笑) 多すぎるので2つにしておきます... (笑)

① Yes! magic) あんなに不安だった留学1か月の。ありえない程上手くいすぎて、逆に怖い。もちろん英語力はまだまだだし、まだ周りの人の助けなしではやっていけないけど、この1か月の自分は本当によくやったと思う。Good job 私!! 小学生だったころ、何を尋ねられても頼まれても「はい!!」と言っていたからハイハイ娘というあだ名を付けられたけれど、今では自分が「イヤイヤ娘」じゃなくて本当に良かったと思う。この1か月半、「Yes(はい)」を連呼していたら全てが上手いってからの。というのも、何かに挑戦するとき、「どうしようかあ〜」と思ったらとりあえずYesと言ってやる。そうすると自然に新しい事や人に出会えるのだ。私の1か月目は、Yes! がキーワードだった。

悩んだら、何でもやってみようがいい。たとえそれが上手くいかなくても、必ず学びや気づきがあるから。

② 褒める文化④) アメリカに来たら、自分がスーパースターになったような気分になることが増えた。大げさに聞えるかもしれないが、真面目な話である。とにかく褒められる。どこに居ても、何をしても。これは私が留学生だからではなくて、アメリカの文化の1つなんだと思う。相手の言動に「オーバーすぎるだろ!!!」と言う程のリアクションをする。ここに来たら何度「You're so pretty♡」「You're beautiful!」「Amazing!!!」と言われただろうか。日本では「いや〜そんなことないよ〜」と返すのだが、アメリカの女子は「Thank you♡ I know I am beautiful♡」という対応である。強い!!! 私か! 日本にいた時のように、「No! I'm not beautiful... You're better than me!!」なんて言うと、すごい表情で「Ohhhh!!! You can have more confidence in yourself!!! Okay?!」と怒られる始末である。褒められると複雑な心境に甘んじているのに、だんだん素直に喜ぶようになってきた。自己肯定感爆上がりである。まだ周りと比べるクセは直らないけれど、自信を持っている人は本当にキラキラしているとアメリカの女子達を見てあらためて思った。私も少しずつ自分を好きになれるような行動をしたい。相手をもっと褒めて、褒められたら「Thank you!!!」を心がけよう!!!